

ロシア 東欧 経済速報

(社)ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel. (03) 3551-6218
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

2002年（平成14年）4月15日 No. 1224

目次

2001年のCIS諸国の経済（上）	1
統計速報	8
2001年のウクライナの国際収支 / 8	
ロシア東欧貿易会関連の行事予定	9
CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	9

2001年のCIS諸国の経済（上）

はじめに

2001年のCIS諸国の経済実績データがほぼ出揃ったので、これにもとづいて同諸国の最新の経済状況についてレビューする。データの出典は基本的にCIS統計委員会である（ウズベキスタンとトルクメニスタンは独自発表）。今回と次回の2回に分けてお届けし、まず今回はCIS全般、ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、モルドバまでお伝えする。中央アジアおよびコーカサス諸国については次号で扱う。

CIS全般：格差広がるCIS経済

後掲の表にみるように、2001年にはCIS諸国の大半でGDPをはじめとする経済指標（鉱工業生産、農業生産、小売売上高等）が良好な値を示し、全体として経済の回復、安定化が一層進んだ。CIS全体としてのGDP成長率は6.0%で2000年を若干下回ったものの、1999年から3年連続成長している。とりわけ成長著しいのは、産油国として石油部門への外国投資が活発なカザフスタンがGDP13.2%増の成長となったほか、同様な状況にあるアゼルバイジャンも9.9%増と二桁に迫る成長となった。

CIS諸国全体として小売商品販売高が伸びており、個人消費の回復が成長の牽引役である。また、固定資本投資をみるとカザフスタンが前年比21%増、アゼルバイジャンは17%